

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03193

研究課題名（和文）東欧文学の多言語的トポスをめぐる研究

研究課題名（英文）Studies of Multilingual Topos of Contemporary Central and Eastern European Literature

研究代表者

井上 暁子（INOUE, SATOKO）

熊本大学・大学院人文社会科学部（文）・准教授

研究者番号：20599469

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,600,000円

研究成果の概要（和文）：2018年10月6日、シンポジウム「東欧文学の多言語的トポス 複数言語使用地域の創作をめぐる求心力と遠心力」を開催した。同年12月1日、上記シンポジウムに参加できなかった2名の外国人研究者を招いて講演会を開催し、講演原稿を『日本スラヴ学論集』第22号（2019）に掲載した。2020年3月、上記のシンポジウムの報告や講演会でのディスカッションをもとにした論集『東欧文学の多言語的トポス』（水声社）を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

北海道大学スラヴ・ユーラシア研究センター、日本スラヴ学研究会、東京大学現代文芸論研究室等の協力を得て、国内シンポジウムと外国人研究者による講演会を開催したほか、講演原稿の活字化（欧文）を行い、論文集『東欧文学の多言語的トポス』（水声社）を刊行することで、国内外の東欧文学研究の発展に寄与した。

研究成果の概要（英文）：On October 6, 2018, we held a symposium entitled “Multilingual Topos of Contemporary Central and Eastern European Literature: Centripetal and Centrifugal motions around multilingual creative activities in multilingual speech communities.” There, we presented papers about various tense situations in the multilingual and multicultural context.

On December 1, 2018, we held a lecture and invited two scholars of Polish Literature, Professor Przemyslaw Czaplinski (Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland) and Professor Magdalena Marszalek (University of Potsdam, Germany). Their lecture papers were published in the Journal of Slavia Iaponica, Vol. 22, 2019. In March 2020, we published a collection of papers based on presentations delivered at the above-mentioned symposium.

研究分野：東欧文学研究

キーワード：東欧 多言語性 ネットワーク 流通 地域 求心力 遠心力 文学史記述

1. 研究開始当初の背景

(1) 東欧の多言語的トポスをめぐる問い

複数言語使用地域として知られる東欧では、文学の創作や個々の文化活動が「多言語性」と分かちがたく結びついている。しかし、多言語化が進行する 21 世紀において、東欧の多言語性は必ずしも地域の固有性として説明できなくなっている。東欧の多言語状況や言語的多様性を背景とする様々な文化的営為を、多層的かつ複眼的に論じるための思考の枠組みや方法論を探求しようという問題意識があった。

(2) 東欧革命以後、東欧の国境地帯の多元性に注がれた国際的な関心

東欧革命以後旧東欧では、第二次世界大戦前当該地域に存在した民族、文化、言語の多元性に対する関心が高まった。国境地帯では、「地域」「家族」といった小さな単位の記憶を、生前に存在した多言語的世界の残響として描く文学が書かれ、少数民族による言語文化の使用環境を整備し、その社会的文化的地位を向上させようとする活動が活発となった。これらは、社会主義時代の中央集権性の解体を促す側面をもっていただけでなく、ヨーロッパの多言語主義・文化主義と連動しており、国際的な注目を集めた。本プロジェクトでは、これらの現象を「東欧の多言語的イメージの生成・流通・変容」の例のひとつとみなし、国際的な視野から検討していくことにした。

(3) 東欧の「中間性」という伝統

第二次世界大戦後、東欧出身の亡命知識人が生成した「中欧アイデンティティ」は、西でも東でもない「中間性」を謳う伝統であり、それは冷戦後も姿形を変えながら存続している。2000 年以後の旧東欧出身作家が唱えた「中欧の詩学」や、旧東欧諸国の多くが欧州連合に加盟した 2004 年以後の旧東欧出身者による西欧中心のヨーロッパ像の相対化は、その伝統の延長線上にある。本プロジェクトでは、「中間性」という伝統が、時代毎に異なる文学の国際化ないし多言語状況を背景としながらいかに変容し発展していくのかを明らかにしたいと考えた。

2. 研究の目的

(1) 東欧の指標としての「多言語性」の再検証

1990 年代から 2000 年代、言語・文化の多様性に普遍的価値を見出す世界的動向の中で、東欧を他者化・神話化する指標としての「多言語性」を検証し直し、各時代、社会、文化において「多言語性」が何を象徴してきたのかを明らかにする。

(2) 第二次世界大戦以前に存在した複数言語社会の生成・発展過程の見直し

東欧内部の多言語使用状況や言語的多様性だけでなく、東欧とその外部の関係、すなわち「横のつながり」に目を向ける。社会・政治・文化など複数の次元で、東欧の言語文化が抱え込む「ずれ」を明らかにし、それが東欧における文学の創作や文化活動の多中心性や脱中心性といわれる特徴にどんな影響を及ぼしているのかについて論じる。

(3) 東欧の多言語的イメージの生成・流通・変容のプロセスを明示

(1)(2)を統合し、複数の次元で引き起こされる東欧の文化的ダイナミクスにおいて「多言語性」が果たした役割とは何かを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 3つの観点の共有

「地域の多言語性」「流通するテキストと 東欧 イメージの生成・変容」「中間的アイデンティティ」という三つの観点を設け、各自が自分のフィールドで現地調査を行い、現地の研究者と積極的に学术交流し、研究成果につなげた。

(2) 学術イベントを通して意見交換

合同研究会(2018年10月)、研究報告会(2019年3月)、東欧の言語・文学を専門とする海外の研究者による講演会やシンポジウムを複数開催し、問題認識の共有、課題の整理、方向性の確認を行い、論集の刊行につなげた。

(3) 国際学会、チェコ・ポーランド国境地帯をめぐる国際移動セミナー等に参加

本プロジェクトのメンバーの複数名が国際学会や国際移動セミナーに参加し、意見交換を行った。

(4) 現地の作家やアーティストへのインタビュー

本プロジェクトのメンバーの複数名が、現地の作家やアーティストへインタビューを行い、今後の研究に活かすための準備をした。

4. 研究成果

(1) シンポジウムや外国人研究者による講演会

本プロジェクトの実施期間内に、「東欧文学の多言語性」というテーマに関連するシンポジウムを、他の科研プロジェクト、日本スラヴ学研究会、東京大学現代文芸論、北海道大学スラヴ・ユーラシア研究センターとの共催で開催した。

・ロシアとウクライナのアヴァンギャルド芸術をテーマとする国際シンポジウム（2016年11月）Intermediation Poetics and Practics of Intermediation Analysis: Creation of Avant-garde Literature, Theatre, Cinema, Music and the Formative Arts

・「多言語」と移動、流通、地域的アイデンティティの関係性を 島 文学という切り口で検証する国内シンポジウム（2016年11月）「島 文学をめぐる新たなアプローチ—地域・移動・多言語性」

・パヴェウ・コジーネク（チェコ科学アカデミー・チェコ文学研究所研究員）による講演会「社会主義体制下のコミックス」（2017年10月）

・国内シンポジウム「東欧文学の多言語的トポス」（2018年10月）

・「ブシェミスワフ・チャプリンスキ教授、マグダレーナ・マルシャウエク教授講演会」（2018年12月）

・「ピョートル・ミツネル講演会：戦間期ポーランドの亡命ロシア」（2019年2月）

・国際シンポジウム「ポーランド文学の多様性」（2019年3月）

・外国人研究者による講演会「緑のスラヴ文学：中東欧のエコクリティシズム」（2019年12月）

(2) 報告、論文投稿、書籍刊行（日本語、外国語による）

本プロジェクトのテーマである「東欧文学の多言語性」に関連した研究成果を、各人が様々な形で発信し、海外の研究者と交流した。とくに、国際学会 ICCEES (2015)、世界ポロニスト会議(2016)、ASEEES (2017, 2018, 2019)、The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (2019) には本プロジェクトから複数のメンバーが参加し、報告を行った。本プロジェクトのまとめとしては、論集『東欧文学の多言語的トポス』（水声社、2020）が刊行された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計43件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 123
2. 論文標題 「カフカに見る「チェコ文学」との交点 ニエムツォヴァーとランゲルを介して」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本独文学会研究叢書』	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 -
2. 論文標題 「チャベックと戦争」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『チャベック兄弟とその時代』	6. 最初と最後の頁 149-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小椋彩	4. 巻 91
2. 論文標題 「レーミゾフとポーランド」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『Pole』	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小椋彩	4. 巻 17
2. 論文標題 「ポスト「亡命時代」の亡命文化研究」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本文学文化』	6. 最初と最後の頁 60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小椋彩	4. 巻 21
2. 論文標題 「ポーランド文学世界翻訳者会議参加報告」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『スラヴ学論集』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ariko, Kato	4. 巻 -
2. 論文標題 "Adaptacja prozy Brunona Schulza w komiksie rodzenstwa Nishioka"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Schulz/Forum 9	6. 最初と最後の頁 147-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.academia.edu/35554536/Ariko_Kato_Adaptacja_prozy_Brunona_Schulza_w_komiksie_rodze%C5%84stwa_Nishioka	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤有子	4. 巻 -
2. 論文標題 「ガリツィアの文化的複層性と連続性 文化遺産保存と18世紀バロック彫刻家ピンゼルを手がかりに」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ポーランドとその隣人たち2 フォーラム・ポーランド2015年会議録 Polska i jej sasiedzi. Czesc II Forum Polska Konferencja 2015』	6. 最初と最後の頁 26-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.forumpoland.org/FP2015.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越野剛、田村容子	4. 巻 7
2. 論文標題 「連環画の中のソ連：女性兵士の物語 『朝焼けは静かなれど』の受容」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『連環画研究』	6. 最初と最後の頁 48-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越野剛	4. 巻 11
2. 論文標題 「ベラルーシの中のポーランド パルシュチェフスキ・ミツキェヴィチ・ブルガーリン」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『ポーランドとその隣人たち2 フォーラム・ポーランド2015年会議録 Polska i jej sasiedzi. Czesc II Forum Polska Konferencja 2015』	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.forumpoland.org/FP2015.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Motoki, Nomachi (with Bojan Belic)	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 “Vojvodina’s Minority Languages in Light of a Language Emancipation Theory”	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Balkanistic Forum	6. 最初と最後の頁 17-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Motoki, Nomachi	4. 巻 74(1-2)
2. 論文標題 "Contact-Induced Grammatical (Non)Changes? Observations on Morphosyntctic Structures in the Kashubian Dialect in Canada ”	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Juznoslovenski filolog	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki, Nomachi	4. 巻 -
2. 論文標題 "Another Look at the Rise and Fall of the West Polessian Literary Microlanguage (with a Glance Toward Less Discussed Ukrainian Factors)"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Ukrainian Studies and the Slavic World (Ljudmila Popovic ed.)	6. 最初と最後の頁 264-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki, Nomachi (with Bojan Belic)	4. 巻 10
2. 論文標題 "21st Century Standard Language Ideology in Serbia and Poland"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Belgrade English Language and Literature Studies: A Special Issue Dedicated to Ranko Bugarski on the Occasion of His 85th Birthday	6. 最初と最後の頁 177-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 7
2. 論文標題 「空いている椅子、あるいはリハルト・ヴァイネルの 書かないことの不可能性をめぐって」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『れにくさ』	6. 最初と最後の頁 114-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 -
2. 論文標題 「ブラハのシュルレアリスム 複数の 現実、複数の イズム」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『ユリイカ』(2016年8月臨時増刊号)	6. 最初と最後の頁 173-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上暁子	4. 巻 -
2. 論文標題 「カントルとバウハウスの関係」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『タデウシュ・カントル生誕100周年記念事業記録集』	6. 最初と最後の頁 82-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上暁子	4. 巻 17
2. 論文標題 書評「データ・ランピング『国際的な文学』 - 比較文学研究分野への導入」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『文学（特集 世界文学の語り方）』	6. 最初と最後の頁 185-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hikaru Ogura	4. 巻 3-4
2. 論文標題 ”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 250-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ariko Kato	4. 巻 7
2. 論文標題 "Eduard Fuchs i Bruno Schulz"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Schulz/Forum	6. 最初と最後の頁 240-244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://www.dropbox.com/s/us5stx67ga8eif2/SchulzForum7.pdf?dl=0	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤有子	4. 巻 -
2. 論文標題 「カントル『死の教室』とヴィトカツィ『脳腫瘍氏』 - ホロコーストの物語として」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『タデウシュ・カントル生誕100周年記念事業記録集』	6. 最初と最後の頁 62-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 越野剛	4. 巻 -
2. 論文標題 「災厄によって災厄を思い出す ベラルーシにおける戦災と原発事故の記憶」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『災厄からの立ち直り 高校生のための 世界 に耳を澄ませ る方法』（寺田匡宏編著、あいり出版）	6. 最初と最後の頁 176-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 17: 1-2
2. 論文標題 “Dative of external possession in Croatian: From an areal-typological perspective”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Jezikoslovlje	6. 最初と最後の頁 453-474
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 -
2. 論文標題 " j ()"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Serbica Iaponica: Doprinos japanskih slavista srpskoj filologiji	6. 最初と最後の頁 111-129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 第16号
2. 論文標題 「カレル・タイゲの「内的モデル」考」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『境界を越えて 比較文明学の現在』	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部賢一	4. 巻 第6号
2. 論文標題 「カレル・タイゲと雑誌『デヴィエトスィル』」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 現代文芸論研究室論集『れにくさ』	6. 最初と最後の頁 221-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenich Abe	4. 巻 30
2. 論文標題 “Some Remarks on Contemporary East European Literature”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoko Inoue	4. 巻 30
2. 論文標題 “Imagination of Space and Places in Polish Travel Writing after 1989: The case of Natasza Goerke's “Before the Storm” ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studie	6. 最初と最後の頁 67-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoko Inoue	4. 巻 30
2. 論文標題 “Alternative Tourists' Guide in the Time of Globalisation: Introduction to Goerke's Essay “Ten Months and Two Days” ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上暁子	4. 巻 -
2. 論文標題 分担執筆「タデウシュ・ルジェーヴィチ」「バヴェウ・ヒューレ」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『東欧の想像力 現代東欧文学ガイド』（沼野充義ほか2名編）	6. 最初と最後の頁 58-59, 66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hikaru Ogura	4. 巻 87
2. 論文標題 ;	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名	6. 最初と最後の頁 149-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hikaru Ogura	4. 巻 -
2. 論文標題 “Migration in Polish Documentaries: “The Siberian Lesson” and Small Homeland”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 77-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hikaru Ogura	4. 巻 -
2. 論文標題 “On New Travel Literature and Central Europe as a Blank Space. Notes on Olga Tokarczuk’s Novel Bieguni and Her Lecture Series in Japan,”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ariko Kato	4. 巻 30
2. 論文標題 "Rewriting Europe: The Central Europe of Yuri Andrukhovych and Andrzej Stasiuk"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤有子	4. 巻 -
2. 論文標題 分担執筆「ポーランド」、「ブルーノ・シュルツ」、「アンジェイ・スタシユク」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『東欧の想像力 現代東欧文学ガイド』(沼野充義ほか2名編)	6. 最初と最後の頁 41-47、50-51、67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Go Koshino	4. 巻 30
2. 論文標題 "Sharing Writers for a Small Nation: Belarusian-Jewish-Russian Writer Grigory Reles"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 越野剛	4. 巻 0
2. 論文標題 「チェルノブイリ原発事故と記憶 ベラルーシを中心に」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『歴史としてのレジリエンス：戦争・独立・災害』(西芳美ほか11名共著)	6. 最初と最後の頁 281-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 -
2. 論文標題 “ The Rise, Fall, and Revival of the Banat Bulgarian Literary Language: Sociolinguistic History from the Perspective of Trans-border Interactions ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 The Palgrave Handbook of Slavic Languages, Identities and Borders (Motoki Nomachi, Tomasz Kamusella and Catherine Gibson eds.)	6. 最初と最後の頁 394-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 30
2. 論文標題 “ Whose Literature? Aspects of Banat Bulgarian Literature in Serbia ”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Slavic Eurasian Studies	6. 最初と最後の頁 179-194
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 -
2. 論文標題 “ Observations on the Use of Past Tense Forms in Banat Bulgarian in the Context of Language Contact with Serbian: the Case of Matija Bancov ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Putevima srpskih idioma. Zbornik u cast prof. Radivoju Mladenovicu povodom 65. rodendana (Milos Kovacevic and Vladimir Polomac eds.)	6. 最初と最後の頁 255-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 0
2. 論文標題 “ Is a New Slavic Language Born? The Ethnolect of the Kosovan Gorans ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 A Jubilee Collection: Essays in Honor of Prof. Paul Robert Magocsi on his 70th Birthday	6. 最初と最後の頁 441-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 -
2. 論文標題 “ Language Contact and Structural Changes in Serbian and Other Slavic Languages in the Banat Region ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 linguistics) (Inside the Space of Slavic	6. 最初と最後の頁 549-565
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 巻 3
2. 論文標題 “ On the Second Be Periphrasis (BE-2) in Kashubian: Its Grammatical Status and Historical Development ”	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 SLAVIA: casopis pro slovanskou filologii (rocnik 84)	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoki Nomachi (with Biljana Sikimic)	4. 巻 72
2. 論文標題 “ Jezicki pejzaz; memorijalnog prostora visejezickih zajednica: Banatski Bugari u Srbiji ”	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Juznoslovenski filolog	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計72件 (うち招待講演 17件 / うち国際学会 44件)

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「ヨーロッパの文学」
3. 学会等名 『集英社高度教養寄付講座 第12回講演会』 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「翻訳家 Paul/Pavel Eisnerの夢想した 共生」
3. 学会等名 『ブラハとダブリン、亡霊メディアの言説空間 複数の文化をつなぐ《翻訳》諸相 第4回研究会』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「リージョナリズムと文学記述：シレジア文学（チェコ語）の事例」
3. 学会等名 合同研究会『シレジアの文学史記述に関する横断的研究と東欧文学の多言語的トポスをめぐる研究』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「チェコ語圏からの視点」
3. 学会等名 研究会『シレジアの文学史記述に関する横断的研究』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上暁子
2. 発表標題 「ポーランド語圏における多言語性をめぐる研究動向について」
3. 学会等名 合同研究会『シレジアの文学史記述に関する横断的研究と東欧文学の多言語的トポスをめぐる研究』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 井上暁子
2. 発表標題 「ポーランド語圏からの視点：ポーランド語文学における上シレジアの精霊」
3. 学会等名 研究会『シレジアの文学史記述に関する横断的研究』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤有子
2. 発表標題 「書かれた／描かれたピウスツキ ユダヤ系雑誌・新聞、切手、博物館」
3. 学会等名 『ユゼフ・ピウスツキ 様々な肖像』（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino
2. 発表標題 "Memory of War in Belarus: Literary and Visual Texts"
3. 学会等名 Panel " Intersection of Literary and Visual Texts in the Context of Russian and Soviet Culture, " the 8th East-Asian conference on Slavic-Eurasian Studies (Chung-ang University, Korea) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino
2. 発表標題 " (ドストエフスキー『悪霊』におけるコレラ疫)"
3. 学会等名 " (Smolensk State University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino (with Yoko Tamura)
2. 発表標題 "Images of Female Soldiers in Russia and China: Chinese Acceptance of the Soviet Film The Dawns Here Are Quiet"
3. 学会等名 Panel "Russian Elements in Asian Film," The 8th International symposium on European Languages in East Asia (Taiwan University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino
2. 発表標題 " : ... (ソ連映画の中国における影響：朝焼けは静かなれど)"
3. 学会等名 " (Shanghai Normal University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino
2. 発表標題 "Transgression of National and Religious Borders in Jan Barszczewski 's 'Belarusian' Literary Works"
3. 学会等名 Panel "Beyond Borders: National and Social Transgression in East European Literature" (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino
2. 発表標題 "Chernobyl and Fukushima Disasters in Japanese Comics"
3. 学会等名 Roundtable "Catastrophe and Modern Culture" (Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 「1930年代の日露作家の樺太／サハリン表象」
3. 学会等名 『日本比較文学会ワークショップ「南北極域の比較文学 アイルランド、パタゴニア、樺太 」』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 「スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ作品の形式的側面について」
3. 学会等名 『シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」』（東京外国語大学）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go, Koshino
2. 発表標題 "Image of Belarusian Village War in Ales Adamovich ' s Literary Works"
3. 学会等名 Workshop "Heu auf dem Asphalt. Topoi Belarussischer Selbstverortungen"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 「ドストエフスキーにおける病と火事」
3. 学会等名 『ドストエフスキー国際ワークショップ「ドストエフスキーにおける《病》の想像力』（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Motoki, Nomachi
2. 発表標題 "Evolution of the Existential Clauses in Kashubian"
3. 学会等名 The 23rd International Conference on Historical Linguistics at San Antonio (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motoki, Nomachi
2. 発表標題 "Placing Kashubian in the Circum-Baltic (CB) Area and Beyond"
3. 学会等名 The 49th Annual ASEES Convention at Chicago (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motoki, Nomachi
2. 発表標題 "Can the Gorani language be planned? The latest sociolinguistic developments in the Gorani community of the former Yugoslavia"
3. 学会等名 The Slavic Grad Colloquium, University of Washington (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenichi Abe
2. 発表標題 "Inspirations of East in Central Europe: Karel Teige's Case"
3. 学会等名 European Network for Avant-Garde and Modernism Studies
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「カフカに見る チェコ 文学との交点 ニエムツォヴァーとランゲルを介して」
3. 学会等名 日本独文学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「トファ！ツシタラ。 中島敦と島と物語り」
3. 学会等名 シンポジウム「 島 文学をめぐる新たなアプローチ 地域・移動・多言語性」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Satoko Inoue
2. 発表標題 "Diversified Identity - The Polish Literary Magazine Bundesstrasse 1 in Germany in the 1990s"
3. 学会等名 Workshop "Cultures in Times of Transition" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 井上暁子
2. 発表標題 「中東欧の島 シレジアを例に」
3. 学会等名 シンポジウム「 島 文学をめぐる新たなアプローチ 地域・移動・多言語性」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小椋彩
2. 発表標題 「レーミゾフの虚実について（アーカイヴ調査をもとに）」
3. 学会等名 日本ロシア文学会第66回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ariko Kato
2. 発表標題 "Motyw reki u Schulza i Rilkego"
3. 学会等名 VII Miedzynarodowy Festiwal Brunona Schulza (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ariko Kato
2. 発表標題 "Nieznana wersja Pale Paryz Brunona Jasienskiego"
3. 学会等名 VI Swiatowy Kongres Polonistow (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ariko Kato
2. 発表標題 "0 Brunonie Schulzu i nie tylko..."
3. 学会等名 Bruno4ever (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ariko Kato
2. 発表標題 "Manga, taniec, przekłady japonskie"
3. 学会等名 Schulz - słownik mowiony (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 " (現代ロシア・ベラルーシ文学におけるユートピアの形象)"
3. 学会等名 " T" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 「アレクシエーヴィチ ソ連のない世界でソ連を思い出す」
3. 学会等名 日本ロシア文学会全国大会プレゼンポジウム「記憶から未来を紡ぐ 現代ロシア文学の30年」(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 "Memory of War in Belarus: Literary and Visual Texts"
3. 学会等名 Work Shop "For the 50th Anniversary of the 50th Anniversary of the October Revolution...: Social and Political Foundations of the Major Ideological Campaigns of the 1965-1970s" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 " : (歴史改変小説におけるロシア革命：キール・ブレイチョフとヴ ィヤチェスラフ・ルイバコフ)"
3. 学会等名 BASEES annual conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Is the Kashubian numeral jeden 'one' an indefinite article?"
3. 学会等名 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi (With Bojan Belic)
2. 発表標題 "Language emancipation: Vojvodina 's minority languages"
3. 学会等名 The 20th Biennial Conference on Balkan and South Slavic Linguistics, Literature and Folklore
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi (With Bojan Belic)
2. 発表標題 "What is language emancipation? A case study from the Serbian Vojvodina"
3. 学会等名 Sociolinguistics Symposium 21
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Dynamika sytuacji kaszubszczyzny w ujeciu teorii emancypacji jezykowej"
3. 学会等名 VI Swiatowy Kongres Polonistow (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Kosovan Gorani in search of an ethno-linguistic identity"
3. 学会等名 東方キリスト教圏研究会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Standard language ideology among Kashubs"
3. 学会等名 Standard language ideology in the Slavic lands (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Standard languages and standard language ideology in Poland"
3. 学会等名 Standard language ideology in the Slavic lands
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Use of the numeral jeden 'one' as an indefinite marker in Kashubian in comparison with other Slavic languages"
3. 学会等名 Zasedani Komise pro gramatickou stavbu slovanskyh jazyku pri MKS (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "I am a Bulgarian, but I am not THAT Bulgarian"
3. 学会等名 The 11th Slavic Linguistics Society Annual Meeting
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "On the project of the West Polissian Literary language being revisited after 30 years"
3. 学会等名 i ic i ' i
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi (with Wayles Browne)
2. 発表標題 "Newly recognized old languages: Ausbau languages and their changes after the disintegration of Yugoslavia"
3. 学会等名 25 years After: Post-Communism 's Vibrant Diversity (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "West Polissian as an endangered language"
3. 学会等名 Endangered Languages and their Revitalization in Central Europe (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 "Language and identity among the Kashubs in Canada: Insights from the latest fieldwork"
3. 学会等名 Hokudai Day 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kenichi Abe
2. 発表標題 "Preklad jako hybridni proces: Ceska literatura v japonskem prekladu"
3. 学会等名 パラツキー大学哲学部招待講演 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kenichi Abe
2. 発表標題 "Ozveny valky v proze a publicistice Richarda Weinera"
3. 学会等名 第5回チエコ文学世界会議 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「チャベックと戦争」
3. 学会等名 カレル・チャベック生誕125周年・ヨゼフ・チャベック没後70周年記念シンポジウム
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 阿部賢一
2. 発表標題 「世界は言葉でつながっている 翻訳現場の最前線」
3. 学会等名 静岡県図書館大会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Satoko Inoue
2. 発表標題 "Re-writing of Stories in an Intercultural Context In the case of a Polish-German bilingual writer, Dariusz Muszer "
3. 学会等名 The International Council for Central and East European Studies (ICCEES) IX World Congress (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 井上暁子
2. 発表標題 「カントルとバウハウスの関係」
3. 学会等名 タデウシュ・カントル生誕100周年記念展「死の劇場 カントルへのオマージュ」シンポジウムpart2「カントルと各文化圏における文学・演劇」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Satoko Inoue
2. 発表標題 “Heterotopien in der Literatur auf der Suche nach den Wurzeln: Friedhöfe und Spiegel in Sabrina Janeschs Roman “Katzenberge” ”
3. 学会等名 Migrationserfahrungen im vereinten Europa (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hikaru Ogura
2. 発表標題 “ 19th Century Literature in 20th Century Artworks: Modernistic Interpretation of Classic Literature through Drawing and Calligraphy of A. M. Remizov ”
3. 学会等名 The International Council for Central and East European Studies (ICCEES) IX World Congress (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Hikaru Ogura
2. 発表標題 “ ” :
3. 学会等名 “ ” (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Ariko Kato
2. 発表標題 “ An Unknown Version of Bruno Jasienski's I Burn Paris ”
3. 学会等名 The International Council for Central and East European Studies (ICCEES) IX World Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 加藤有子
2. 発表標題 「カントルとヴィトカツィ ヴィトカツィ原作作品をめぐって」
3. 学会等名 タデウシュ・カントル生誕100周年記念展「死の劇場 カントルへのオマージュ」シンポジウムpart2「カントルと各文化圏における文学・演劇」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 加藤有子
2. 発表標題 「ガリツィアの文化的複層性 彫刻家ピンゼルを手がかりに」
3. 学会等名 2015年度フォーラム・ポーランド会議《ポーランドと隣人たち》第2回（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 “ The Image of German Soldiers and of Belarusian Collaborators in Belarusian-Soviet War Films ”
3. 学会等名 The International Council for Central and East European Studies (ICCEES) IX World Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 “ The Island of Sakhalin-Karafuto in Russian and Japanese Literature during the Interwar Period ”
3. 学会等名 アジア学会(AAS)西部大会（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 “ Territorial Perception of Tuteishiya (Local People) in Contemporary Belarusian Literature ”
3. 学会等名 International Conference “ Redefining Eurasian Territories: Governance, Perceptions, and Identities ” (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 “ Albums and Their Handwritten Novels as Soviet “ School Folklore ” Material ”
3. 学会等名 The Joint Symposium by IREES and SRC: “ Russian Culture: Daily Life and Festivity ” (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 越野剛
2. 発表標題 ベラルーシの中のポーランド 作家ヤン・バルシュチェフスキを中心に
3. 学会等名 2015年度フォーラム・ポーランド会議《ポーランドと隣人たち》第2回(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Go Koshino
2. 発表標題 “ A Subverting Perception of Tuteishiya (Local People) in Contemporary Belarusian Literature ”
3. 学会等名 Hokkaido University & Ghent University Joint Conference “ Connecting Japan and Belgium ” (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 “ : ” “ ”
3. 学会等名 13 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 “ Dative of External Possession in Croatian: From an Areal-Typological Perspective ”
3. 学会等名 5. Hrvatski sintakticki dani (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 “ Banat Bulgarian in Present-Day Serbia: A Language Emancipation Perspective ”
3. 学会等名 Dynamika rozwoju gwar słowiańskich w kontekście dziedzictwa narodowego i kulturowego (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 “ Placing the Banat Bulgarian language: fluctuating identity and semiotics of power relations in a multiethnic region ”
3. 学会等名 The International Council for Central and East European Studies (ICCEES) IX World Congress 2015 (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Nomachi (with Bojan Belic)
2. 発表標題 “Standardized Yet? Aspects of the standard language ideology in Serbia and Poland”
3. 学会等名 Slavic Linguistics Society Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 “On the Second Be Periphrasis in Kashubian Revisited”
3. 学会等名 40- (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Motoki Nomachi
2. 発表標題 “On the Kashubian Periphrasis”
3. 学会等名 47th ASEEEES Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 阿部賢一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 340
3. 書名 『カレル・タイゲ ポエジーの探求者』	

1. 著者名 小野尚子、本橋弥生、阿部賢一、鹿島茂	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新潮社	5. 総ページ数 158 (担当箇所114-119)
3. 書名 『ミュシャ パリの華、スラヴの魂』	

1. 著者名 Ariko, Kato	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Muzeum Sztuki w Lodzi	5. 総ページ数 464 (担当箇所253-260)
3. 書名 Montaze. Debora Vogel i nowa legenda miasta (Andrij Bojarov, Pawel Polit, Karolina Szymaniak red.)	

1. 著者名 越野剛	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 356 (担当箇所34-35他)
3. 書名 『ペラルーシを知るための50章』(服部倫卓・越野剛編)	

1. 著者名 越野剛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 88 (担当箇所5-13)
3. 書名 『国際シンポジウム「文化の汽水域～東スラヴ世界の文化的諸相をめぐって～」報告集』(沼野恭子編)	

1. 著者名 越野剛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 『ゆれるおっぱい、ふくらむおっぱい 乳房の図像と記憶』（武田雅哉編）	

1. 著者名 越野剛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 -
3. 書名 『社会主義文化における戦争のメモリスケープ』（高山陽子編）	

1. 著者名 Motoki, Nomachi (co-edited by Tomasz Kamusella and Catherine Gibson)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Slavic-Eurasian Research Center	5. 総ページ数 103
3. 書名 Central Europe Through the Lens of Language and Politics: On the Sample Maps from the Atlas of Language Politics in Modern Central Europe	

1. 著者名 Motoki, Nomachi (co-edited by Dieter Stern and Bojan Belic)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Peter Lang	5. 総ページ数 -
3. 書名 Linguistic Regionalism in Eastern Europe and Beyond: Minority, Regional and Microliterary Languages	

1. 著者名 野町素己	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 356 (担当箇所113-119他)
3. 書名 『ペラルーシを知るための50章』(服部倫卓・越野剛編)	

1. 著者名 Motoki Nomachi	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Matica srpska/SRC	5. 総ページ数 346
3. 書名 Serbica Iaponica: Doprinos japanskih slavista srpskoj filologiji	

1. 著者名 ゾフィア・ナウコフスカ(加藤有子訳)	4. 発行年 2015年
2. 出版社 松籟社	5. 総ページ数 119
3. 書名 『メダリオン』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Slavic Eurasian Studies No.30 http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/coe21/publish/no30_ses/index.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小椋 彩 (Ogura Hikaru) (10438997)	東洋大学・文学部・助教 (32663)	
研究分担者	野町 素己 (Nomachi Motoki) (50513256)	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授 (10101)	
研究分担者	阿部 賢一 (Abe Kenichi) (90376814)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	越野 剛 (Koshino Go) (90513242)	東京大学・文学部・助教 (12601)	
研究分担者	加藤 有子 (Kato Ariko) (90583170)	名古屋外国語大学・外国語学部・准教授 (33925)	
研究協力者	チャプリンスキ プシエミスワフ (Czaplinski Przemyslaw)		
研究協力者	マルシャウエク マグダレーナ (Marszalek Magdalena)		
研究協力者	ヤジェンブスキ イエジ (Jarzebski Jerzy)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ミツネル ピョートル (Mitzner Piotr)		
研究協力者	バルチュ アンナ (Barcz Anna)		
研究協力者	フンドロヴァ タマラ (Hundorova Tamara)		
研究協力者	トレプテ ハンス・クリスティアン (Trepte Hans-Christian)		
研究協力者	ヘルビヒ・ミシェフスキ ブリギッタ (Helbig-Mischewski Brigitta)		
研究協力者	ズドゥニャク・ヴィクトロヴィチ マウゴジャータ (Zduniak-Wiktorowicz Malgorzata)		